

所 報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第171号 令和4年12月8日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

- ・ 小学校、中学校外国語教育授業参観の実施報告
- ・ 江別市初任研修の実施報告

小学校、中学校外国語教育授業参観実施報告

11月1日（火）に江陽中学校、11月29日（火）に江別第二小学校で、今年度の英語・外国語参観授業が実施されました。この取組は、各小学校の外国語教育指導協議会の担当者に参加して頂き、紹介して頂いた実践を参考に、市内外国語教育の充実につなげていくことを目的に進められてきました。しかしながら、感染症の広がりを受け、多くの参加者を集めての実施がまだまだ難しく、今回は中学校区毎の代表（8校区から1名ずつ）が、参加しての交流授業となりました。



課題の解決に向け交流し合う児童の様子（江別第二小）



授業後のディスカッションの様子（江別第二小）

小学校の授業は、担当の宮浦教諭と来日16年目のロビン・ウェグナー氏が協力し、5年生の時に既習した、He can ～（彼は、～できる）、He is good at ～（彼は、～が得意です）の表現を用いて、クイズ形式でオリンピック、パラリンピックの選手を紹介し合う学習を見せて頂きました。学習の最大のポイントとなったのは、紹介でキーワードとなる種目名をあえて外させ、選手の特徴を伝え合わせたこと。どんな工夫が必要かグループ交流させる場面が設けられ（思考による気づき）、「伝えたい」「話したい」気持ちを高めさせていく学習が展開されていきました。考えさせる活動や、交流を取り入れることで、アクティビティーに富んだ体験型の授業が展開され、生き生きと取り組む子どもたちの姿を見ることができました。

中学校の授業では、授業担当の川瀬教諭と来日8年目のロス・サザーランド氏が協力した形容詞や副詞を用いた比較表現の授業を見せて頂きました。特設としての特別な授業ではなく、デジタル教科書を使った通常の授業を意識した展開で、前時の確認から、新しい単語を含めたニューセッションの発音・読みの確認、文章の和訳と早いテンポで、流れるように授業が進められていきました。しかしながら、生徒は戸惑うことなくスムーズに取り組むことができおり、この様子から担当者が、授業パターンを確立させ、日常から生徒に見通しを持って取り組ませる環境を作りだしていることが伺えました。



ALTによる学習支援（ウォーミングアップ）の様子（江陽中）



授業後のディスカッションの様子（江陽中）

2つの交流授業で意識されていたのは、単元の中で身に付けさせたい能力を、明確に示すことと（学習課題）、定着させるための必要なアクティビティー（体験的学習）を意識していることでした。そして、「課題提示」から、「解決のための手立て」、「まとめでの定着」といった学習展開を確立させることにより、児童生徒が授業に見通しを持つようにさせ、集中力を高めさせるように意図的に仕掛けていることでした。

市内に配置されているALTを、より効果的に活用していくためには、授業内での担任との役割分担が明確化されることが大切になってきます。「どの段階で」、「どんな目的を持ち」、「どんな支援方法でALTを活用するか」、連携を図りながら進めていくことがポイントになってきますが、今回の交流授業は手本となる実践紹介となりました。

江別市初任研修の実施について

10月11日（火）に江別市が独自に主催する初任研修（H30、R元年度 江別市新採用教職員対象13名）が実施されました。今回の企画は5月に実施された初任研修の第2期研修で、第1期研修と同様に、同期の教職員が日常の実践について交流し、お互いに刺激し合える関係性を築いていくことを目的に実施されました。

研修の前半では、講師の江別市教育委員会学校支援地域本部CO岩倉隆氏から「不易と流行について」講話が持たれ、教職員の仕事には、時代に合わせた学びの流行があり、理論を学ぶための研修も盛んに行われていきますが、逆に、どんなに新しい時代がきても、変わらない指導のベースとなる考え方があり、それは自分が積極的に学ぼうとしない限り、身に付けられないものもあるので、実践に当たっては、大切にしたいと話しがされました。

また、研修の後半のグループ討議では、「実践の交流」、「後期への課題」の2つのテーマを中心にこれまでの実践をもとにした、意見交流がもたれていきました。協議の最後には、全体での交流が行われ、これからの実践に向けての視点が話されるなど、目標を共有し研修を終えることができました。



江別市初任研修でのグループ討議の様子